＜第１３８号＞　　令和６年２月１日発行

少年センターだより

可児市役所 地域協働課内　☎ 62-1111(内線 2116)

青少年の見守り活動について

〔青パトによる街頭補導〕

写真は、少年センターの補導員による青パト（青色回転灯搭載車による街頭補導）の出発準備の様子です。本年度も、補導員の皆さんに熱心に補導に取り組んでいただいています。これまでの活動をご紹介します。

〔少年センター補導員の皆さんによる常時補導〕

可児市青少年育成推進員２４名の皆さんがリーダーとなり、各地区の青少年育成推進員の補導担当の皆さん７０名が少年センター補導員として補導活動を行っています。4名、または、３名の班を編成して、各班が年間３回、青パトに乗車して学校周辺や通学路、公園、公共施設、駅、大型店舗、ゲームセンター等を巡回して、子どもたちに声掛けをしながら、青少年の安全を見守っています。

本年度４月から １２月までの常時補導活動の回数と巡回時間帯は、次のとおりです。

朝の巡回	6 回〔7 時 ～ 9 時〕	マーノ・可児駅、通学路を中心に巡回
昼の巡回	11 回〔15 時 ～ 17 時〕	マーノ・可児駅、学校周辺や公園等を巡回
夕方の巡回	18 回〔17 時半～19 時半〕	マーノ・可児駅、学校周辺や公園等を巡回
夜の巡回	18 回〔20 時 ～ 22 時〕	マーノ・可児駅、公園、大型店周辺等を巡回

「気を付けてね」「暗いので早く帰ってね」など、これまでに、３２１名の青少年に声を掛けていただいています。どの青少年も、素直に声掛けに応じています。また、通学路では登下校の小・中学生の元気な挨拶の声もたくさん聞くことができています。コロナ前の活気がだいぶ戻ってきました。

〔夏休みの特別補導、可児夏まつりの補導〕

市内の小中学校の夏休み期間中には、各小中学校のＰＴＡ会長の皆さんや各地区の補導部の部長さん、そして市の推進員の皆さんで、夜２０時半から２２時半の時間帯に青パトによる巡回補導を１３日間実施していただきました。マーノや大型店舗等、青少年が多く集まる場所を巡回していただき、積極的に声かけをしていただきました。

また、可児夏まつり補導は、８月１２日（土）に実施しました（８／１３（日）は雷雨のため中止）。可児警察署の指導員や協力員の皆さん、また保護司の皆さんと一緒に会場を巡回しました。帰宅が遅くなっている青少年に呼びかけたり、巡回区域のゴミを拾ったりしていただきました。

〔可児駅周辺の見守り活動〕

４年ぶりに可児駅周辺の「年末夜間見守り活動」（１１月・１２月の木曜日と金曜日の２０時～２１時）を実施しました。マーノに本部をおき、合計１５日間、可児市青少年育成推進員の有志の皆さんを中心にして、青少年に声掛けを行っていただきました。

参加してくださった皆さんの総数は１１３人、声掛け人数は１８４名となりました。

年末のあわただしい中、積極的にご参加いただきありがとうございました。

「学校へ行けない　僕たちの気持ち」
～僕たちを支える　地域の力～

可児市青少年育成市民会議は、令和５年１１月１８日（土曜日）に、「秋のこどもまんなか月間」にちなみ「青少年育成シンポジウム」を開催しました。講師として、漫画家 棚園正一 先生をお招きしました。先生は、小学校から中学校時代を不登校で過ごされました。１３歳の時に漫画家鳥山明氏と出会い、漫画家を目指された体験を、誠実に丁寧に、次のようにお話しになりました。

１ 小中学校時代の気持ち

不登校のきっかけは、１年生の学芸会の練習の時のことです。先生の説明についていけなくて、先生から内容を問いただされますが、「わかりません」としか答えられませんでした。すると、先生から２度、たたかれました。その時のことを、両親には言葉で伝えられず、しだいに、朝になると頭が痛くなって布団から出られなくなりました。そのうちに、自分のことを「ぼくはフツウじゃないんだ」と思うようになりました。

ぼくは、教育テレビを見たり、自習をしたりして過ごすようになりました。「明日は行くから」と言いながら、なかなか学校へは行けません。学校へ行けるときには、母はママチャリで送ってくれました。しかし、短時間で学校の準備することができず、校門をくぐるのが難しくなりました。どこにも気持ちをぶつけられず、母とケンカをすることが多くなりました。小学校へは、行ったり行かなかったりの繰り返しになりました。

生まれ変わって中学生になる。完璧になるまで、外の世界には出たくないと、考えるようになりました。学習面で聞きたいことがあると、深夜でも両親を起こして尋ねました。「育て方をまちがえたな」と父に言われることもありましたが、うらめしいと思いませんでした。気持ちはどんどん内側に向いていきます。中学に入学したけど、また、すぐ行けなくなりました。

２ 鳥山明先生との出会い、フリースクールでの気持ちの変化

母とのケンカがすざまじくなりました。自宅には、いろんな支援者の方が来るようになりました。その一人が、同じ町内に住んでいた鳥山明先生の所へ連れて行ってくれました。先生は僕の絵を見て、「キミの漫画にはさ、もうすでに自分の世界があるのがいいよね」と、褒めてくれました。ぼくは、「生まれてきて良かった」と思いました。負い目と思う気持ちが薄らいだように感じました。ぼくは、先生に「学校に行かなくても漫画家になれますか」と尋ねました。先生は、「行った方が学校の話とか描けるから便利かもね」と答えました。ぼくは、「そうか、それだけのことか」と思いました。

ぼくはアニメの専門校に行ったり、定時制に入ってやめたりしましたが、転機となったのは、その後のフリースクールでの経験です。フリースクールというとポジティブな印象は受けませんでしたが、実際に、生徒の一人ひとりと交わってみると、それぞれにいろんな事情があることを知りました。多くの友だちができましたし、学校でしかできない経験を取り戻せた。なによりも、これまでの自分の道のりが肯定できました。

３ 学校へ行きたくない君へ、保護者さん・地域の方へ

将来に不安を感じている君に伝えたいことがあります。それは、同じような毎日でも、振り返ってみると、実はらせん階段のようになっていて、少しずつ景色が違っていることです。ぼくの場合、これ以上は進めないと感じていた壁も、いつの間にかなくなっていました。いつからでもスタートはできるし、出会いだって何回でもやり直せる。少しでも気持ちに余裕が生まれた時は、外へ出て人との出会いを大切にしてください。

また、その周りの方に伝えたいことがあります。不登校の子は理想が高い。理想を離れた時に可能性は広がるものです。まずは、いろんな選択肢を提示しておいてあげることが大事です。ぼくの場合、「うるさい」と言いながら親の話を聞いていました。自分で行動しようと思ったときに、それが役立つものです。

青少年の健全育成にご協力を

１１月は『秋のこどもまんなか月間』です。可児市内各所で、声かけや啓発物資（カイロ・風船）の配布等、街頭啓発活動を行っていただきました。

そのうち、「ドン・キホーテ UNY 可児店」では、令和５年１１月５日(日曜日)に街頭啓発活動を行いました。市長挨拶の後、中恵土地区・兼山地区の皆さんが、熱心に呼びかけを行っていただきました。

主に、呼び掛けていただいたのは次の２点です。

①スマホ利用の約束づくり
②危険ドラッグ等の乱用防止

市長挨拶・巡回の様子

○ 参加者の皆様

この１１月の啓発活動には、可児工業高等学校と帝京大学可児高等学校のＭＳリーダーズのみなさんを始め、各地区の関係者や青少年育成推進員が参加されました。参加者は合計１５６名となり、およそ４千名を超える市民の皆さんに、青少年の健全育成を呼びかけることができました。

○ 啓発活動場所

次の、市内大型店舗と地区センターの協力を得て実施しました。

高校生のみなさん

〔ご協力いただいた店舗〕

○ドン・キホーテ UNY 可児店
○ロピア可児店
○エディオン可児今渡店
○パレマルシェ西可児店
○バロー西可児店　○Vdrug 西可児店
○オークワ可児坂戸店
○ホームセンターバロー可児坂戸店
○バロー広見店
○ヨシヅヤ・パティオ可児店

啓発活動のようす

〔地区センターまつり会場〕

○中恵土地区センターまつり　○川合地区センターまつり
○土田地区センターまつり　○姫治地区センターまつり
○桜ケ丘地区センターまつり

相談窓口のご紹介

◇スマホやインターネットのトラブルや被害の相談

犯罪被害　＃９１１０（県警、地区の警察署の相談窓口につながります）
お金の被害　１８８（最寄りの消費者生活センターにつながります）

◇いじめ相談

可児市いじめ防止専門委員会　（子ども専用ダイヤル）０１２０－２６３－１１５
（相談室 直通電話）　０５７４－６２－８７００
岐阜県「いじめ相談２４」　０１２０－７４０－０７０（フリーダイヤル：２４時間いつでも対応）
０５８－２７４－００１０（直通電話：携帯電話はこちら、ただし有料）

◇青少年の問題についての相談

可児市 地域協働課 地域支援係　０５７４－６２－１１１１（内線２１１６、平日９時～１６時）

毎月 第３日曜日は『家庭の日』

岐阜県では、県内の小中学生を対象に、「家庭の日」の普及・実践活動の一環として、「『家庭の日』啓発図画・ポスターの募集」を行っています。また、可児市青少年育成市民会議では、市内の小中学生を対象に、「一家庭一実践」のいっそうの普及を願い「『わが家の宝物』作文・標語の募集」を行っています。いずれも、小中学生に明るく豊かな家庭づくりについて考えるきっかけにしてもらいたいと、毎年、実施しているものです。

本年度は、この２つの作品募集に、合わせて８２６名の児童・生徒の皆さんが応募してくれました。寄せられたそれぞれ作品からは、「家庭のふれあい」や「家族の団らん」、「親子の情愛」や「家族への感謝」など、作者の温かな思いが伝わってきます。

少しでも多くの方に、２つの作品募集の入選作品をご覧いただきたいと、令和６年１月１２日から２４日まで、広見地区センターで「『家庭のぬくもり』図画・作文・標語作品展」を開催しました。また、作文・標語の募集の入選作品を集め、「『わが家の宝物』作文・標語集 第２３集」を発行しました。この「第２３集」は、市立図書館など下記の場所にございます。お手に取っていただけたら幸いです。

ここでは、昨年度作品展の様子と、「わが家の宝物」標語の部の優秀賞受賞作品をご紹介します。

昨年度の作品展の様子

「わが家の宝物」作文・標語
作品集（第２３集）
・可児市役所 地域協働課
・可児市立図書館
桜ケ丘分館、帷子分館
・市内各小・中学校の図書館
にて、ぜひご覧ください。

「わが家の宝物」標語の部　優秀賞作品

いつだって　家族はぼくの　おうえんだん
東明小学校　神谷　理央　さん

ただいまと　おかえり言える　この場所が
ぼくの一番　大事なたから
桜ケ丘小学校　早川　拓真　さん

父ちゃんの　心ぽかぽか　手作りおじや
今渡北小学校　寺田　衣吹　さん

〔紹介〕　岐阜県若者サポートステーション

〔無業状態の若者〕が社会的・職業的自立を目指すための総合相談窓口です。

◇ 対象：１５歳～４９歳までの若者、及び、その保護者です。

◇ 相談はすべて無料・予約制です。（事前の問い合わせが必要です。）

◇ 問合せ先　TEL ０５８－２１６－０１２５　　E-Mail　gifusapo@icds.jp

※　無業状態の若者のサポートのためには、まずはご両親を始めとする家族の支えが重要だと言われます。ご家族が相談されることも大切です。就活に踏み出せなくてお悩みの方、お気軽にお問い合わせください。

なお、相談活動は、毎週水曜日に可児市総合会館（広見 １－５）でも行われています。